

共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業

第1回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

中部地区（7月15日）

【出席者】

| | |
|-----------------------------------|--------|
| 県立清武せいりゅう支援学校 | 松田 律子 |
| 学校法人宮崎総合学院 宮崎福祉医療カレッジ社会福祉士学科 | 保田 浩美 |
| 社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会 | 大山 晃代 |
| 一般社団法人 宮崎県手をつなぐ育成会 | 井上 あけみ |
| 宮崎県肢体不自由児・者父母の会連合会 | 田中 聡子 |
| 特定非営利活動法人 障害者自立応援センターYAH! DO みやざき | 山之内 俊夫 |
| 宮崎市教育委員会生涯学習課 | 松岡 真一郎 |
| 新富町社会福祉協議会 | 嶋末 剛 |
| 県福祉保健部障がい福祉課 | 元長 貴司 |

【協議の記録】

- これまでの取組
 - ・ 昨年度、初め、ヤッドみやざきと宮崎福祉医療カレッジとの学生との交流を始めたが、なかなか活発化しなかった。
 - ・ いろいろ考えるよりもまずは、やってみることが大切と考え、ボウリングと食事会を実施した。
- 今年度の取組について
 - ・ 今年度もこの方向性でやっていきたい。
 - ・ 今年度は、定期的に話し合う場を確保するために「自主サークル」を立ち上げる。
 - ・ そこで、何かやりたいことや何気ないことをみんなで定期的に集まり、みんなで話し合う。
 - ・ まずやってみて、できないことが起きたら、みんなで工夫してどうにかしようというのいいのではないか。その考える過程が大事だと思う。
 - ・ まずはスポーツをみんなでしようということから始まり、そこに向けてどのようにしようか、自主サークルの中で話し合い考えていきたいと思うが、どうか。
 - ・ 例えば、バリアフリー運動会を実施する。それを企画する段階から障がいがある方も入って一緒に考えていく。これがいいやり方だと考える。
 - ・ 初めから、イベントを立ち上げていくことはかなり難しい。他の団体が企画するイベントに参加することから始めてもよいのではないか。
- 自主サークルのメンバーについて
 - ・ まずは、YAH! DOみやざきのスタッフと福祉医療カレッジの学生からスタートすることになると思うが、その枠が広がっていくという考えでよいか。
 - ・ その考えで構わないが、初めから入ってもいいのではないかとも考える。例えば、宮崎大学の学生も入って広げてもいいと考える。
 - ・ その活動をSNSなどで発信してメンバーを広げてよいのではないか。
- サポートについて
 - ・ 公民館への自主グループの登録や、活動については学生やYAH! DOのスタッフには荷が重い部分があると考え。周りのものもサポートしていく必要がある。

共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業

第1回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

南部地区（7月15日）

【出席者】

| | |
|-----------------------|-------|
| 県立都城きりしま支援学校 | 川越 浩司 |
| 県立小林こすもす支援学校 | 福崎 正浩 |
| 南九州大学人間発達学部子ども教育学科 | 野村 宗嗣 |
| 都城市障害者自立支援協議会 | 川口 貴博 |
| 特定非営利活動法人 宮崎県精神福祉連合会 | 衆畑 貴志 |
| 霧島おむすび自然学校 | 壹岐 博彦 |
| 子どもと家族・関係者の集まり ポン太クラブ | 外山 明美 |
| 都城市教育委員会生涯学習課 | 桑田 玲奈 |
| 小林市教育委員会社会教育課 | 高妻 司 |

【協議の記録】

○ 今年度の取組について

- ・ 霧島おむすび自然学校、ポン太クラブ等の民間団体と都城市の生涯学習課の行政とが協働して実施する公民館講座という形で進めていきたい。
- ・ 現在のコロナ感染症の状況で、公民館が閉じてしまう可能性があるが、できることを実施していきたい。
- ・ 例えば、山登りをテーマに何回かのシリーズものを計画する。山登りを最終目標とし、まずは簡単な場所から登り方や歩き方について学び、肢体不自由の方や視覚障がいの方について、どのような点に配慮すべきかの研修を行う。そのような学びが大切なのではと考える。
- ・ このような取組だと、どのような障がいのある方でも、障がいの有無に関わらず参加することができる。このようなものが、公民館の講座として位置付けられたらいい。
- ・ 史跡巡りという視点もよいが、防災という観点で自分が住む町で、どこをどのように避難したらよいか、どこにトイレがあり、どこに水道があるかという視点で歩き、いざ災害があったときも動くことができる。また、実際に歩いてみて車いすで移動が難しいことや道路を舗装すべきといったことを、行政にお願いすることもできるのではないかと考える。
- ・ 都城市には「ハロー元気講座」というものがあり、先程の登山の計画と「ガーデニング講座」を絡めて実施することも可能で、そのことにより、山登りの際に季節の花などに目が向くのではないか。
- ・ 基本的には、都城市の公民館講座で講座ができればよい。フットパスやガーデニング等、参加したい講座に障がいの有無に関わらず参加できるような体制づくりが大事で、シンプルだと思う。

○ 昨年参加して

- ・ 昨年、うちの施設のB型利用者から7名程度参加させてもらった、知らない人と歩くという点で緊張したのか、次の日に施設を休まれた方もいた。今後の参考になると思う。

○ 学生のボランティアについて

- ・ 学生がボランティアとして参加してもらうことは可能か。
- ・ 活動のねらいや、その学生にどんな意味があるかがはっきりと示されていれば、可能であると考える。

○ 今後について

- ・ 霧島おむすび自然学校やポン太クラブだけでなく、他の団体の方や学校、行政がどのように関わっていきけるかを考えていく必要がある。
- ・ 団体の皆さんにはそれぞれの専門性を、行政の方には情報提供など、みんなで関わっていくことができる。
- ・ 自立支援協議会としても、いろんな活動を施設に啓発することは、毎月会議があるので可能。また、さまざまな利用者の方に声をかけることも可能である。

共生社会の実現に向けた生涯学習支援に係る実践研究事業

第1回コンソーシアム連携協議会 協議の記録

北部地区（7月15日）

【出席者】

| | |
|-------------------------|-------|
| 日向市地域福祉コーディネーター連絡会 | 成合 進也 |
| 株式会社グローバル・クリーン | 税田 和久 |
| teとteの会 | 甲斐 麻央 |
| 宮崎LD・発達障がい親の会 フレンド | 猪股 重子 |
| 旭化成アビリティ延岡営業所 オフィスサービス課 | 木村 進二 |
| 延岡市教育委員会社会教育課 | 飯野 小巻 |
| 日向市教育委員会生涯学習課 | 治田 健吾 |

【協議の記録】

○ これまでの取組について

- ・ 昨年度から、こんなことできたらいいという内容を少し盛り込んだ実践のプランを動かそうとしている。
- ・ 日向市の県立ひまわり支援学校に行き、学校の実態とどのようなことができるかを日向市の生涯学習課と調整しながら実施していきたい。
- ・ キャリア教育の取組の一環として、賛同していただける企業等を集めて、本気の職業体験といった「人生寺子屋」を実施したことがある。これを10月か11月に実施したい。
- ・ この「人生寺子屋」を少しアレンジして、誰もがさまざまな職種を体験できるようなきっかけづくりを行いたい。現在20種類くらいを考えている。
- ・ この結果をもとに、日向市生涯学習課の方と実践を検証しながら、公民館プログラムを実施する方法を模索できたらよい。
- ・ そのためには、生涯学習、社会教育に関わる人たちが、現状を知る場をもつことが大切で、当事者の声や学びのニーズを理解した上で取組を考えていく必要がある。
- ・ 「人生寺子屋」や「福祉食堂」など、実際に地域の中で関係者と一緒に行うといったイメージで考えている。

○ これからについて

- ・ 委員の皆さんには、それぞれ得意な分野で参加していただき、プログラム化に向けて御意見をいただきたいと考えているが、後は実行するのみの段階に来ているのではないかと。
- ・ これまで議論してきて、行政が中間支援をしないと実践がうまくいかない状況があった。そこで、今回は、私がコーディネーターとして、この中間支援を行いながら、実践につなげていきたい。
- ・ 3年目の今年度は、行政とさまざまな団体とがネットワークを結んで実践していきたい。特に、福祉を学んでいる学生にも関わって欲しい。
- ・ 初めてのことで分からないことも多い。まずはトライアンドエラーでやってみることから始めて行ったらいいのではないかと。
- ・ 広報についても、特別支援学校にしていくことが必要ではないかと。また、参加者のターゲットを特別支援学校に絞ることも意義深いと考える。
- ・ 特別支援学校を卒業すると、さまざまな情報が入りにくくなる。在学中に「生涯学習」という学びの場があるということを知る上では、特別支援学校で実施する意味は大きい。
- ・ さらに特別支援学校だけでなく、地域の小中学校の児童生徒を交えて実施することが共生社会の実現にさらに近づくのではないかと。